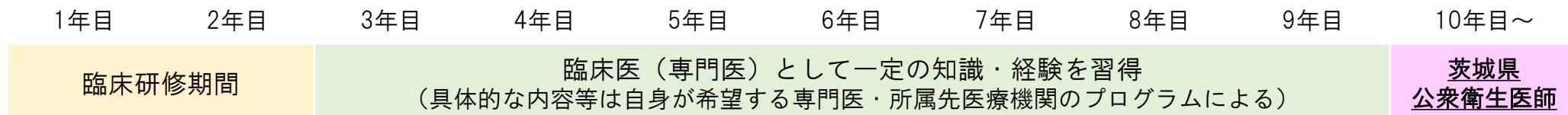


茨城県公衆衛生医師のキャリアプラン モデルケース

①若手医師が専門医取得後、すぐに公衆衛生医師になる（30代前半）パターン

<入職前後のキャリアのイメージ>

※卒後年数で記載



<入職後の具体的なキャリアのイメージ>

※入職後年数（卒後年数）で記載

| 行政 (公務) | 1～5年目 (卒後10～14年目) | 6～10年目 (卒後15～19年目) | 11～15年目 (卒後20～24年目) | 16年目～ (卒後25年目～) |
|-----------------|---|--|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 行政 (公務) | 主任・係長級として 特定の事業を担当 | 課長補佐級・課長級（保健 所技佐）として、事業推進 とマネジメントを両立 | 課長級（保健所長）として保健所の組織全体・ 管轄医療圏をマネジメント | 部長級（保健医療部長）として県全体 の保健医療行政をマネジメント |
| 臨床 (公務外) | 入職前に取得した専門医の更新⇒兼業等により、勤務時間外に臨床経験を積む | | | |
| 研究・研修 (公務) | 職層に応じ、県職員全体を対象とする一般研修等に参加 (主任研修・係長研修・課長級研修等) 国立保健医療科学院(専門課程Ⅰ)への派遣 社会医学系専門医 (専攻医)の取得 社会医学系専門医 (指導医)の取得 県委託事業により 大学研究室のゼミ受講 | | | |
| 大学院・研究 (公務外) | 社会医学系専門医の指導医として後進育成 大学院進学（学位取得） 所属学会等の研修等に随時参加 | | | |

茨城県公衆衛生医師のキャリアプラン モデルケース

②臨床医としても中堅層に位置する医師が、公衆衛生医師になる（40代前半～）パターン

<入職前後のキャリアのイメージ>

※卒後年数で記載

1~15年目

臨床医（専門医・指導医）として一定の知識・経験を習得

16年目～

茨城県公衆衛生医師
(数年以内に保健所長の可能性あり)

<入職後の具体的なキャリアのイメージ>

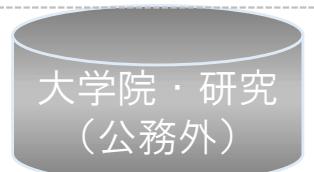
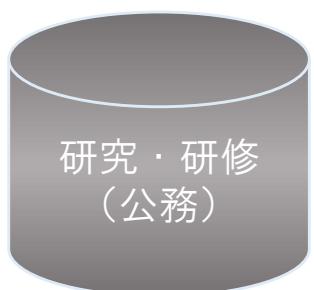
※入職後年数（卒後年数）で記載

1~5年目
(卒後16~20年目)

課長補佐級・課長級（保健所技佐）として、事業推進とマネジメントを両立

6年目～
(卒後21年目～)

課長級（保健所長）として保健所の組織全体・管轄医療圏をマネジメント
部長級（保健医療部長）として県全体の保健医療行政をマネジメント



入職前に取得した専門医の更新⇒兼業等により、勤務時間外に臨床経験を積む

職層に応じ、県職員全体を対象とする一般研修等に参加
(課長級研修等)

国立保健医療科学院への派遣（最優先）

社会医学系専門医（専攻医）の取得

県委託事業により大学研究室のゼミ受講

社会医学系専門医（指導医）の取得

社会医学系専門医の指導医として後進育成

所属学会等の研修等に随時参加